

「始めを原ね、終わりを

要むるに、二行に過ぎず。」

弘法大師『大日経解題』

「はじめ」と「おわり」と言ういたって簡潔な見方で仏さまを伺うと、「修行」と「救済」と言う表現になります。また、ここから外れる事は一切なさいません。

例え些細な事と言えども、その根底にはこの「二行」を適えるための方便が隠されています。

では、私たちの「二行」とは、更に個々のそれとは一体何を以て表現したら良いのでしょうか。

実は、古より引き継がれた方法が有ります。それは、日々に考えられている「供

養」と「利益」が衆生の「二行」に当たります。

「供養」の実現には、出来る限りの布施が必要と成り、「利益」の実現には、出来る限りの謹み敬う心が必要と成ります。

高野山の大師教会大講堂に掲げられている「相互供養」「相互礼拝」は、我々の「二行」を端的に現している名文であります。

人は、施しにより固執から解放され、敬愛により怒りからも解放されます。貴方も今すぐにでも。

平成二十六年春季彼岸会

南山 沙門 修詮記